

1.3 重要種の生息状況

既往調査資料から重要種の三番瀬海域における生息状況等について整理し、表-3 に示した。

表-3 重要種の生息状況

分類群	科名	種名	RDB		三番瀬における確認状況				三番瀬における生育・生息状況	千葉県における生育・生息状況
			環境省	千葉県	補足調査	H14年度調査	H15年度総合解析	H16～H17年度調査		
腹足綱	ワカウラツボ	カワグチツボ	—	D	○	○	*	○	経年的に確認されている。 H16～H17年度調査では、猫実川河口前面の泥干潟域、シルト域で多数確認されている。	市川市、浦安市、船橋市、習志野市、千葉市から記録がある。船橋・千葉両市では埋め立てのため、絶滅した可能性が高い。しかし、江戸川放水路、新浜湖・三番瀬奥部行徳沖、谷津干潟では、未だ潮間帯から上部浅海帯にかけて高密度で生息している。
	ミズゴマツボ	ウミゴマツボ (エドガワ ミズゴマツボ)	—	D	○	○	*+	○	経年的に確認されている。 H16～H17年度調査では、滞筋底部、沖合のシルト域、猫実川河口前面の泥干潟域で多数確認されている。	市川市江戸川放水路、浦安市新浜湖・三番瀬奥部行徳沖、千葉市美浜区検見川、木更津市小櫃川河口から記録がある。千葉市では埋め立てのため、絶滅した可能性が高い。小櫃川河口からミズゴマツボと報告されたものは本種と考えられ、1975年には確認されていたが、1987年には見られてなくなっている。前2地域では、未だ潮間帯から上部浅海帯にかけて高密度で生息している。
	オリイレヨフバイ	ムシロガイ	—	C	○	—	*	○	経年的に確認されている。	千葉県 RDB では東京湾では絶滅と記載されている。富浦町と勝浦市で確認。内房から外房のポケットになった微少な内湾での残存を指摘。
二枚貝綱	フナガタガイ	ウネナシトマヤガイ	—	B	—	—	—	○	護岸直下やカキ礁などマガキ群集が存在する場所にはかなりの密度で生息していると考えられる。 これまで確認されていない理由は調査範囲や方法の違いと考えられる。	市原市八幡、富津市富津岬、銚子から記録があり、近年では江戸川放水路で確認されている。
	マルスダレガイ	オキシジミ	—	C	—	—	*+	○	H16～H17年度調査では、沖合の砂底域、および猫実川河口域で確認された。	市川市、浦安市、千葉市、市原市、袖ヶ浦市、木更津市、富津市、館山市から記録がある。 江戸川放水路や小櫃川河口で個体群を維持している。
	オキナガイ	ソトオリガイ	—	C	—	—	+	○	H16～H17年度調査では、猫実川河口域において1回のみ確認されている。	市川市江戸川放水路、浦安市新浜湖、千葉市美浜区幕張、木更津市小櫃川河口、銚子から記録がある。江戸川放水路、小櫃川河口では個体群を維持している。
甲殻綱	コブシガニ	マメコブシガニ	—	D	○	—	*	○	経年的に確認されている。	もともとは干潟にごく普通の種類であるが、県内での状況は、干潟が残っている地域、例えば木更津市などに限定されている。
	イワガニ	モクズガニ	—	D	—	—	—	○	H16～H17年度調査では、測線 L-3 において1回のみ確認されている。対象海岸域における生息は少ないものと考えられる。	佐倉市、小櫃川、養老川、加茂川、神明川、君津市の小糸川などの県内の主要な河川でカニカゴによる採集が行われ、食用にされていたが、近年は著しく漁獲量が減っている。全国規模で減少傾向にある。
	スナガニ	ヤマトオサガニ	—	D	—	—	*+	○	H16～H17年度調査では、猫実川河口前面の泥干潟域において、干出時に多数確認されている。 補足調査、H14年度調査で確認されていない理由は調査方法の違いによるものと考えられる。	本種は泥干潟に生息するが、かつては東京湾のような干潟は非常に広くひろがっていたが、埋め立てによってその大部分が消失してしまった。現在の主たる生息地は、市川市新浜湖、谷津干潟と木更津市の小櫃川河口干潟で、県内の他の大型河川の河口域にごくわずかに生息する。
硬骨魚綱	ハゼ	ピリング	—	D	○	—	*	○	経年的に確認されている。 H16～H17年度調査では、塩浜2丁目～3丁目の前面海域で多数が確認されている。	利根川水系や、いくつかの河川の河口域を中心に記録がある。しかし近年、生息条件を備えた河口域や汽水湖が急速に減少していることから、全体の生息状況はかなり悪化していると推定される。
		エドハゼ	絶滅 危惧 IB類	D	○	○	*	○	経年的に確認されている。 H16～H17年度調査では、塩浜2丁目～3丁目の前面海域で多数が確認されている。	夷隅川の河口や江戸川の河口などで記録がある。この種は、自然環境の種類に敏感で、人為的な環境の変化の影響を真っ先に受けるといわれる。一方、本種に関する県内の情報は極めて少ないため実体は不明である。
種子植物	アマモ	アマモ	—	D	—	—	—	○	H16～H17年度調査では2箇所を確認されたが、いずれも1～2株の確認であり、確認場所に定着している可能性は低いと考えられる。	小櫃川河口の盤洲干潟、富津干潟、館山湾～勝浦の静かな入り江に生育する。

注1) 補足調査: 1996～1997年を中心に実施された「市川二期地区・京葉港二期地区計画に係わる補足調査」

注2) H15年度総合解析の凡例

\*: 三番瀬で生息が確認されている種

+: 現在の三番瀬周辺の汽水域(江戸川放水路など)で生息が確認されている種

注3) 千葉県における生育・生息状況は、「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—動物編・植物編」より引用した。

注4) 引用文献等

・千葉県環境部自然保護課(2000)千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—動物編

・千葉県環境部自然保護課(1999)千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—植物編

・千葉県(2004)平成15年度三番瀬自然環境総合解析「三番瀬の現状」報告書